



村章

広報 なまじん

毎月1日発行

1988年

12月

No. 157



天底小学校創立100周年を盛大に祝う

明治21年に天底尋常小学校として創立し、校舎落成まで勢理客村事務所を借用、謝名、仲宗根以東の村々を校区として開校した村立天底小学校が数々の歴史を刻みつつ、名実ともに内外に誇れる立派な学校として、今年で100歳の誕生日を迎えた。

100周年を祝い学校の更なる発展を願って11月5日村役場から学校まで旗頭を先頭にパレードが行われ、児童、職員、地域の人たち多数が参加した。(写真は天底小学校100周年祝賀パレード)

今帰仁村の人口

昭和63年10月31日現在

世帯数

3,001(+1)

男

女

4,846

4,889

(+14)

(+10)



人口 9,735(+24)

望ましい土地利用について 活発に討論

村おこしシンポジウム

- ★ 今帰仁村の望ましい土地利用を考える「むらおこしシンポジウム（村主催）」が十月二十五日村コミュニティセンターで開かれた。
- ★ シンポジウムは、自然環境の保全と開発の接点を見いだす、土地利用について村民の理解を深め、今後の村づくりの在り方を探る狙いで開かれたもので、村民をはじめ、北部地域の企画開発担当者らを含め約三百人が詰めかけ、講演やパネリストの発言に熱心に耳を傾けた。
- ★ シンポジウム開催に当たって上間博安村長は「先人の残してくれた豊かな自然と文化遺産の重要性を認識し、土地利用について専門家の先生方の報告、問題提起を受けながら、開発や保護問題を考え、これからの村づくりに役立てたい」とあいさつ。

▼シンポジウムには大勢の人が参加



基調報告



近田文弘
静岡大学助教授

基調講演で近田文弘静岡大学理学部助教授は、地球上の自然資源が人間にとって有限なものであることを問題認識の前提として話を進め、水と緑は相互に深く関わりあう存在であり、緑が失われれば、その結果として水もまた失われ、それがさら

らに緑の消失につながっていくことを強調した。

また富士山麓の自然環境の保全と利用を両立させる接点を決める自然環境管理計画策定事業に取り組んでいる同氏は、野山に降った雨（河川・地下水）を生活用水、産業用水に利用している今帰仁村の自然環境の特質が富士山麓と良く似ていて、その量は決して大きくないと森林の保全の必要性を報告。

さらに、大規模開発に伴う環境汚染の問題について語り、特にゴルフ場開発の農薬大量使用による薬物汚染は社会的な問題として地域に住む人々の生活と健康をおびやかしている指摘。村の土地利用をはかるうえで

問題提起

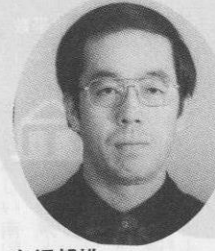
自然についてよく調査し、よく学び、これらのことを考慮した開発を進めることが重要であると結んだ。



木崎甲子郎
琉大理学部教授

水をどう保全し
利用していくかが問題

基調講演を受けて木崎甲子郎（琉大理学部教授）、池原貞雄（琉大名誉教授）、西島信昇（琉大理学部教授）、真栄城守定（沖縄地域科学研究所所長、大城常夫（琉大法文学部助教授）、伊集一隆（村助役）の六人のパネリストは、塩坂邦雄（株・環境アセスメントセンター代表取締役、研究所長）をコーディネーターに地質、動植物生態、海洋、社



塩坂邦雄
（株・環境アセスメントセンター代表取締役研究所長）

会科学、経済の専門的立場から問題提起を行った。

海の土地利用計画の策定により水産振興を

西島氏は、村地先の海域環境特性と海域利用について述べ、



池原貞雄
琉大名誉教授

していくかが大きな課題となることを述べた。

自然の動植物の新しい利用法の可能性を強調

池原琉大名誉教授は今帰仁村は豊かな自然に恵まれた素晴らしい村であり、自然環境の保全を重要視した一九七五年に策定した土地利用基本計画を評価。

「野性生物には未知の法則や新しい利用の可能性が隠されている。また、恵まれた自然は村民の精神生活を和やかに豊かにものにする。優れた多くの人材が輩出したのも自然の恵みによるものであろう」と語り、土地利用にあたって自然を保全し、自然の仕組み、意義を理解したうえで活用が必要であると説いた。

広域的な視点からの土地利用を



真栄城守定（財・沖縄地域科学研究所所長・所長）

海域区分を①干瀬とイノー（礁池）の発達する海域、②与那嶺から崎山までのイノーがなく干瀬だけが発達する海域、③大井川の河口域、④大井川の河口から運天の海域、⑤運天水道のよな内湾域、⑥古宇利北側海域、⑦古宇利南側海域の七つに区分それぞれの「海域の特性をふまえた海の土地利用計画を策定し、栽培漁業などによって海域を有効に活用することによって、もうかる漁業が可能である」と水産振興をうったえた。そのためには、赤土流出の防止は言うまでもないと提言した。

社会科学の分野から真栄城氏

基礎的条件を勘案 住民の合意形成が前提



大城常夫
琉大法文学部助教授

は、①土地利用とネットワーク②土地利用と地域社会、③土地利用ポテンシャル（潜在能力・可能性）と広域的課題について話を進め、社会情勢の変化をどのようにに経済活動と結びつけていくかを考えなくてはならないとし、リゾート開発やゴルフ場など新しい産業による地域開発や本郡半島を含めた広域的な土地利用を提言し、「いろいろな形ででてくる可能性について最終的に判断し、決定していくのは村民自身である」と述べた。

本村勢理客出身の大城常夫氏は経済学の立場から都市から来た人々が村内の豊かな自然のおんけいを受けても村には経済的効果がないところに問題があり恵まれた自然条件をどう経済活動に結びつけていくかが課題とし、人口、産業、地域社会構成、防災などを含めた基礎的条件を十分に勘案して村の将来像を画

村として開発を 否定はしてない



伊集一隆助役

伊集一隆助役は村勢全般について報告し「村として開発を否定はしてない。調和のとれた開発を推進している」と述べ開発を進める場合は事前調査を行ない業者との間で協定書を交わし、被害のないようにつとめていると強調した。例として嵐山へのゴルフ場誘致を上げた。

カンパ金の報告

ひきつづき行われたフロア応答では、①林道建設にあたって山の風景をこわさない方法がないか。②不燃物処理場の位置について質問があり、本田先生は①について「山の現況を踏査したうえで景観についてデザインする方法がある」。②については「産業生活廃棄物の処理方法については、相当の覚悟が必要」と警鐘を鳴らした。

東京国立競技場で行われる第三十七回全国青年体育大会への選手派遣費のカンパを十月九日の村陸上競技大会で村民の皆様にお願いしたところ十七万七百三十三円（役場職員カンパ含む）の派遣費が集まりました。派遣選手は次のとおりです。

男子走高跳
与那嶺敦（崎 山一七一）
女子走高跳
長田浩子（仲宗根二七七）
女子砲丸投
富里優子（越 地三五二）
大変ありがとうございました。

今帰仁村青年会長
大城隆徳

地域ぐるみで 100周年祝う 旗頭先頭にパレード 村立天底小学校



▲体育館で行われた祝賀会には大勢の方が参加

村立天底小学校（新里善盛校長）の創立百周年を祝うパレードが十一月五日に、記念式典が六日に催され、児童や職員、教育関係者、卒業生、父母など地域ぐるみで母校の発展を盛大に祝った。

同校は明治二十一年五月二十二日に今帰仁小学校から分離独立し天底尋常小学校として誕生。校舎が完成するまで勢理客村の区事務所を仮校舎に、児童数四十人でスタート、幾多の苦難を乗り越え、数々の歴史を刻みつつ八千八百人の卒業生を世に送り出し、社会の各般で活躍している。現在の在籍は二百九人で「進んで学習する子」を教育目標にして勉学に励んでいる。

祝賀パレードはコミュニティ



祝賀パレードは、児童や校区の婦人による踊りで祝賀会を盛り上げた。

記念式典は体育館で開かれ、新里校長、座間味邦夫期成会長、湧川英男PTA会長らが次々とあいさつ。當閲重樹児童会長は「百周年の歴史と伝統を受け継ぎ、先輩たちに負けないようにすばらしい学校にしていきたい」とあいさつ。上間博安村長は「百周年おめでとうございませう。百年の貴重な歴史の上に名実ともに内外に誇れる学校を更に発展させましょう」と祝辞をおくった。

山側からトンネルを
握手をかわす
喜ぶの通り
長と大城秀昭
側と呉我山
博安村長と



呉我山第一トンネルが貫通 昭和六十四年 九月に完成の予定

近年の高速交通に処するため、村民のかつての願であった主要地方道名護運天線の改良にもなう呉我山第一トンネルの貫通式が十月二十五日同トンネルで行われた。

貫通式は県の関係者や工事関係者、宇我山、字玉城の区民ら多数が出席して行われた。出席者が見守る中高良尚光県土木部長の手によってダイナマイトのスイッチが入られ、爆発音とともに無事貫通、大きな拍手で喜びあつた。

呉我山トンネルは、宇我山から仲宗根までの延長五・一キロメートルの道路改良事業の一環として六十

▼貫通し完成がまつれる呉我山第1トンネル



二年度に工事に着手。六十四年九月末に完成する予定である。同トンネルは、延長三百六メートル、幅員九・二五メートルで宇我山に位置し、同路線の現道拡幅整備とともに村内の風光明媚な松並木及び周辺環境の保全を図るために計画されたもので、完成後は村の産業経済に大きく寄与することが期待されている。

大好評のうちに閉幕 「やんばるの自然」展

「やんばるの自然」展

特別展「やんばるの自然」展が十月二十八日から三十一日の四日間にわたって村コミュニティセンターで開かれ、延べ約二千人の村民や関係者が訪れ、「改めてやんばるの自然をみなおした」という人もいて好評を博した。

セミやコオロギなどの虫の音が聞こえる会場を訪れた幼児、児童生徒は、ヤンバルクイナや

ノグチゲラ、ヤンバルテナガコガネなど北部地域にしか生息していない世界的にも貴重な動物の生物、さらに植物などについて写真やパネル、はく製などを観察。動植物の分布状況や生態について学んだ。

初めて目にするノグチゲラやヤンバルクイナのはく製に歓声を上げたり、テープレコーダーから流れる虫の鳴き声に「どこにいるの?」「とふしぎがる子どももいて、熱心に係員の説明を受けていた。

▲仲宗根保育所の園児たちも熱心に観察



なお同展では村の蝶である「フタオチヨウ」や村の鳥「サンコウチョウ」などの写真も展示された。



上間博安村長、平良正男漁協らによってテープカット

古宇利漁港が開港 総事業費六億八千万円 水産振興にははずみ

昭和四十六年に第一種漁港として指定され、村が五十八年から整備を進めていた古宇利漁港がこのほど完工し、十月二十七日同漁港で開港式が、引き続き環境改善センターで祝賀会が開かれ、区民や関係者ら約二百人が出席し、開港を盛大に祝った。

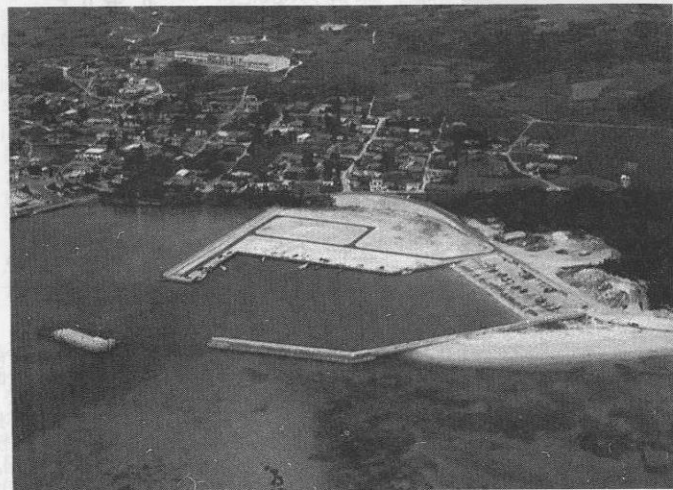
開港式では、上間博安村長、平良正男組合長、喜納一古宇利区長、森永正彬沖繩総合事務局長、水産部長、山城正栄農林水産部長が安全、豊漁、発展を祈願してテープカット、祝賀会の上間村長は「漁港の開港を期に、豊かな漁場に活用して

水産業をより発展させよう」とあいさつ、漁民を激励した。これを受けて平良漁協長は「漁港の開港により漁船の大型化が図られ水産振興にはづみがつく」とあいさつ。

この後「かきやで風」や古宇利婦人会員による余興などで開港に花を添え、祝賀会を盛り上げた。

同漁港は、国の第七次漁港整備計画によって国、県の補助事業で総工費六億七千九百九十八万円を投じ五ヶ年で完工した。漁港は近代的で将来をみすえた規模になっている。

古宇利の漁業従事者は百八十八名で漁船数四十一隻（四十七トン）を有し、六十二年度の漁獲量は二百三十四トン、約一億八千万円を水揚げしている半農半漁。漁港が整備されたことにより水揚げはさらに伸びるものと関係者は期待している。



▲古宇利区民の期待をになって開港した古宇利漁港

に、豊かな漁場に活用して



伊是名島一泊旅行記

今泊老人クラブ

上間政春

一発端

わたしたち今泊の老人クラブでは、この数年来、春秋二回の「社会見学」を実施している。昨年春は国体主会場を見学し、秋には南部高速道路の開通に伴って、その初乗り入れをした後、県立博物館を見学した。

今年の春、見学場所を検討したが、適当な場所が決らないので、春は総会を盛大にやることにして、社会見学は秋にもちこすことになっていた。

十月初め頃、秋の社会見学の行先地について皆で話しあったところ、「フェリーいぜな」の運天港就港とタイミングがあつて、衆議一決、伊是名行きを決定した。これまで普通の社会見学旅行の際、経費は会持ちであるが、一泊旅行ともなれば、会から若干の補助は出るが、必要経費は希望者各自で負担しなければならぬということも、あらかじめ確認しておいた。

二計画・準備

さて行先地は決つたものの、日程をどう組み入れるかについては一苦労した。というのは、行事が次々と予定されていたからである。老人クラブ関係でも、ゲートボール村予選、老人婦人合同スポーツ大会、地域交流会等と、めじろ押しである。

海を渡る旅行だけに、一番気になるのは天候であつた。余りおそくなると、それだけ天候もあやぶまれる。

行事の合間をぬって役員会を開き、十一月三・四日に決行することを決めて会員に提示した。各班長に参加希望調査をしてもらったところ、前々から話がなされていたので、一両日中には、男子十九人、女子三十七人計五十六人という多人数の希望者が揃つた。この人数は出発の日まで殆ど変更がなかったから、名簿作成を始めすべての面で好都合であつた。

いつものことながら、老人たちの行事なので、特に健康面の

ことは、十分な配慮が必要である。村社協に連絡して、「ボランティア活動等行事用保険」加入の手続きもしてもらつた。

今泊と運天港間の輸送、船舶事務所や宿泊所との連絡、観光

計画、地元との交流会等について、ぬかりのないよう準備を進めた。幸い、伊是名村出身で、かつて今泊村内の学校に勤務しておられたN先生御夫妻や、筆者と師弟関係にある北山高校卒業生N・Y君との連絡が取れたので、交流会の手配は、一切彼等にお願ひすることにした。

三実施

1 海を渡る

十月末から十一月にかけて好天続きで、出発の日も空はからりと晴れていたが、海上はかなりしけているようだった。四百五十トンの伊是名丸は設備がよいから、たいしたことはあるまいと思つていたら、運天港外に出た途端、向い風を受けてゆれ出した。初め船室のベンチに掛けてテレビを楽しんでいた女性の幾人かが、大あわてで畳敷きの大部屋に退いて横になつた。上甲板に上つていた人たちも、波しぶきを避けて下りて来た。椅子に掛けている男たちの中にも、青い顔をしている人が何人か居た。

▲運天港にて



船に弱い人にとっては、たとえそれが一時間余りの短時間とはいえ、堪え難い苦行を強いられているようなものである。私も何度か時計を見ながら待ちかねていると、やっと伊是名の島が間近になり、白砂の美しい屋那覇島や伊是名城が眼前に迫つて来た。

2 歴史の島伊是名

ホテルに荷物を置いた一行は、マイクロバス三台に分乗して、

三時頃島内観光に出発した。運転手兼ガイド役のI氏は、県文化財保護指導員だけに、沖繩歴史に詳しい方である。紙面の都合で、見学地の概要だけを述べておこう。

大主が、その子佐銘川大主を伊是名に遣わし、伊是名グスクを築かせたという。佐銘川大主の子苗代の大親(のち尚思紹)は第一尚氏の祖になつていく。

で、休日にも拘らず、教育長、老連会長を初め、十数人の老連や婦人会関係の方々が集つて下さつた。お陰で村の離島振興総合センターで、晚七時半から十時頃まで、とても楽しい交流会を持つことができた。

相互間の紹介をする中で、「私たちが幼い頃から六七十年にわたつて、毎日のように眺めて来た伊是名島の土を、今日始めて踏んで感激しています。」と挨拶すると、「皆様は今帰仁と伊是名を結ぶ伊是名丸就航後の交流団の第一陣です。これを機として両村の交流が益々深められましよう……。」と親密感あふれる挨拶がかわされた。続いて双方から幾人かの人があいつつや感想発表をしたが、何れも心温まるお話であつた。

の目的を十分に達成することができた。特にわが今帰仁に對面している離島村伊是名との交流の端緒を開いたことは、何にも増して大きな成果であつた。又沖繩歴史の上で重要な地歩を占める伊是名の見学が、スムーズに行われたことも意義深いものがある。少しおかげだが、「親善交流の旅」であり、「史跡探訪の旅」であつたと結論つけてよいようだ。

①尚円王生誕地(みほそ所) 県指定文化財(史跡)で字諸見、屋号アサギの敷地内にある。第二尚氏の始祖、尚円王の「へそつき」をした場所と伝えられる。近くにウブガー(スンジヤガー)がある。

②伊是名村の字 私たちは伊是名村の五つの字を、仲田↓諸見↓内花↓勢理客↓伊是名の順に廻つた。全村で人口は約一、九〇〇位しかないそうだが、各地で大規模の土地改良事業が行われているのが目についた。

相互間の紹介をする中で、「私たちが幼い頃から六七十年にわたつて、毎日のように眺めて来た伊是名島の土を、今日始めて踏んで感激しています。」と挨拶すると、「皆様は今帰仁と伊是名を結ぶ伊是名丸就航後の交流団の第一陣です。これを機として両村の交流が益々深められましよう……。」と親密感あふれる挨拶がかわされた。続いて双方から幾人かの人があいつつや感想発表をしたが、何れも心温まるお話であつた。

心地向い海風を受けながら船旅を楽しんだ。伊平屋丸が、朝日に船体をきらめかしながら、私たちの航路の前方を横切つて、西の方へ進んでいくのが見えた。

当初希望した申込者が、全員もれなく参加し、何の支障もなく無事完了したことは、執行部の者たちにも満足感を与えた。又比較的若い老人たちが、全体の三分の一以上も参加して、それが旅行隊に活気を与えたことも見のがせない。

③銘苅家住宅 尚円王の叔父の末裔と言われ、総地頭職を勤めた家柄で、国指定重要文化財(建造物)になっている。

④伊是名城跡 県指定文化財(史跡)で、宇里の玉御殿と同じく、第二尚氏王統にかかわる墓陵である。

昨日からの二十時間そこの旅をふりかえつて軽い安堵感を覚えた。運天港に着いたのは、追い風も幸いして、十時五分という早い時刻であつた。私たちは埠頭で待っているマイクロバスに乗り移つて、早々と帰宅した。

最近老人クラブの行事は、次第に多くなりつつあるようだが、「行事の精選」については、大いに検討の余地があると思う。私たちの社会見学も、今年のように、年一回でもよい、村老連行事なども考慮すべき点が多々ありやしないか。

尚離島への船旅は、秋口でなく、初夏にした方がよさそうである。

四むすび

④伊是名城跡 県指定文化財(史跡)で、宇里の玉御殿と同じく、第二尚氏王統にかかわる墓陵である。

⑤伊是名の玉御殿 これは史跡、建造物の二重指定を受けている文化財で、伊是名城跡の北西中腹に位置し、首里の玉御殿と同じく、第二尚氏王統にかかわる墓陵である。

⑥伊是名の玉御殿 これは史跡、建造物の二重指定を受けている文化財で、伊是名城跡の北西中腹に位置し、首里の玉御殿と同じく、第二尚氏王統にかかわる墓陵である。

⑦伊是名の玉御殿 これは史跡、建造物の二重指定を受けている文化財で、伊是名城跡の北西中腹に位置し、首里の玉御殿と同じく、第二尚氏王統にかかわる墓陵である。

⑧伊是名の玉御殿 これは史跡、建造物の二重指定を受けている文化財で、伊是名城跡の北西中腹に位置し、首里の玉御殿と同じく、第二尚氏王統にかかわる墓陵である。

3 総合センターにおける交流会

伊是名の東方海岸に突出したピラミッド状の岩山の中腹にある。伝承によれば、伊平屋の屋敷

さきに述べたN先生とN・Y君の肝入りで、あらかじめ教育委員会に連絡がなされていたの

翌朝六時半に目を覚まし、ホテ

今年の私たちの社会見学は、行事多端の折にも拘らず、会員みんなの積極的参加を得て、そ

おわり

少年の主張



夢にむかかって

古守利 中学一年生
平田 YUKI

私は昨年この舞台へ立ち自分の主張をしました。その時私は「私の夢」と題し教師になりました。と言うことを発表しました。その時です。母が教師になりました。という私の強い意志に気づいたのは。

それまでは、夢について何も語り合った事がなかったけれど私の夢を知った母が、その後私への協力を惜しみなくやってくれました。表には出しませんが、接しかたを見ているとんだかこれまでの母とはちがうなにかとつともなく広い広い何かで、私をみつめていてような気がしました。

中学に入学する、一月前、母は私に「中学時代が大事よ、人生半分がきまる前だから、なまはんかな気持ちで入学するくらいならやめなさい」ときびしい顔で言いました。私は、その時ちかいました。「自分の道、自分でちゃんとえらぼう」と母はさらに、「自分できめたことは自分で切り開くようにしなさい、お母さんは手をかしたりはしな

いだよ、回りの人達だつてそうよ。母は強く、つき放すことによつて、私の夢が実現することに協力していると思ひました。また、それまで何もかもわなかつた父が「おまえたちは、まだ若い、今から自分の人生、道を選んで、歩いて行くんだ。若いうちにいろいろなものにチャレンジする」と言つてくれました。さらに父は、私のやる気を認めて、無線の免許をとることをすすめてくれました。父自身はおとし免許をとりました。父から何かをすすめられるということは、私が父とくらして十三カ年にはじめてのことです。私は早速、無線の免許取得に向けて準備を始めました。

今、私は弟と二人で協力しながら、無線、試験に向けてがんばっているところです。母がはげまし、父がささえるというのが家の方針です。昨年の主張以来私は両親や兄弟の愛情につつまれて生活を

していることを実感として感じています。みんなが先生(教師)になることを応援しているような気がするのです。この家族の愛情に支えられているために、私は次のようなことに気をつけていこうと考えました。

- 一つ どんな時にも、明るくすなおな心をわすれず
 - 二つ いつでもチャレンジ精神をわすれず
 - 三つ 心を広く持ちだれにでもすかれるようなあたたかさを持つ人
 - 四つ 人の気持ちをわかつてあげられる人
 - 五つ どんなにつらくても、たえる人
- この五つは、これからの私にとつても、とても必要なこと、必要になつてくることです。今では、回りの人達は、私を見て明るくなつたね。あんなにおとなしかった子が。とよく言います。
- ひっこみじあんだつた私がいろいろな経験をかさねていくうちに、明るく、度胸をつけてきま

寄附

社会福祉に役立ててほしいと村社会福祉協議会に次の方々から寄附がありました。

- 岸本本敬さんツルさん(呉我山一三五) 夫妻からお二人の米寿記念として十万円。
- 今年カジマヤーを迎えられた我那覇隆盛さん(謝名六五)の一、桃原カマダさん(謝名三五三)、松本マヌさん(謝名六五)の、三名からカジマヤー祝記念として九万円。
- 中村ムタさん(運天九五九)

大事な中学生生活をおくっているこのごろです。なんでもチャレンジを自分の合い言葉にして、授業、試験とがんばっています。中学校では、小学校にはない、さまざまな出来事がおこります。まさに、こうき心、チャレンジ精神をやしなうさいの学年時期、だと私は思っています。そしてそれがきつと、私の夢である「教師」とつてなくてはならないのだと思います。母や父、弟や妹、回りの人みんなの、期待にそえるように教師への道を一步、一步、歩いていきたいと思つています。

から夫、喜源さんの香典返しとして五万円。

また、子弟の教育に役立てて下さいと育英会にも次の方々から寄附がありました。

- 島袋裕太郎さん(呉我山二〇五) から祖母カメさんの香典返しとして五万円。
- 大城初子さん(仲宗根一八七) から夫、健一さんの香典返しとして五万円。
- 松田重恒さん(東京都保谷市伏見六二一三〇・運天出身) から上間村長との三中で同級生のよしみで十万円。
- 芳志ありがとうございました

保健婦室だより

お気軽にご相談を!

アルコール症

1 酩酊によるアルコール中毒

健康障害

急性アルコール中毒は、アルコール酩酊、つまり、運動障害、平衡障害等、千鳥足で歩く状態以上の酔いをいい、死亡することもあり、一升瓶やウイスキーボトルのラッパ飲みは大変危険です。

2 長期飲酒による健康障害

消化管 膵臓への障害

長期飲酒の中でも副菜をとらずに飲んでいいますと、胃や腸の粘膜に及ぼすアルコールの影響は、胃潰瘍や十二指腸潰瘍等をひきおこし、さらには膵臓をこわし糖尿病になる危険もあります。

3 アルコール依存

アルコールを長期に渡って飲用し続けていると、個人差はありますが、酒を飲まずにはいられない状態、アルコール依存になります。

1 精神的依存

「アルコール渴望」の状態になりますとやめようと思つてもやめられません。

2 身体的依存

精神的依存状態が続き、さらに飲み続けると「耐性」ができてさらに酒量が上がります。頭痛、手足のこわばり、冷や汗をかいたり、けいれんや「せん妄」といって手足がふるえ、幻覚、幻聴が出てきたり、禁断症状が現われます。それをすぎると

酒は哀歎の魔術師

「酒は人生の伴侶」とも言われ、年々その消費量は激増し、社会生活の潤滑油ともなつてい

(3) 二日酔い(付酔)

前夜の深酒ののち一〇時間ほど後の翌日に、頭痛、めまい、顔面蒼白、強い吐き気、嘔吐、全身疲労感、眼球振とう、血圧上昇など、精神が高ぶりその苦しみにもう二度と酒は飲むまいと後悔する、といった症状におそわれることをいいます。それは、飲酒によって脳細胞に退行性変化が起つたり、体内の水の分布状態が変わり、大脳、腎、肺では、細胞の外に水が多くなり、細胞内の水分が減り、またアルコールの利尿作用で尿が多

(1) 脂肪肝

胃や腸から吸収された物質は門脈によって肝臓に入りますから、肝臓は最も高い濃度のアルコールにさらされ障害を受けます。

2 酔いつぶれるまで飲んで、翌朝まで覚えていない。

酔いつぶれるまで飲んで、翌朝まで覚えていない。

(3) アルコール症 (慢性アルコール中毒)

脳や内臓が侵され「アルコール痲呆」となります。アルコールの安全圏は日本酒三合以下、●境界圏は三合五合、●危険圏は五合以上と知つて、自分の人生を大切にすることは、酒をたしなんでも決して、酒に吞まれないことです。

「酒は百薬の長」と言われる反面、「酒は百害あつて一利なし」とも言われますが、その用い方によつて毒とも薬ともなる「哀歎の魔術師」であります。また、「一杯が二杯、二杯が三杯となる」性質をもっているために害を招くことになり、現在アルコール乱用によつて、どれだけ多くの人々がアルコール症になり貴い生命を、また価値ある人生を失っているかわかりません。

(1) 急性アルコール中毒

健康障害

大量飲酒による嘔吐、頭痛などの不快な症状をいいます。

(2) 悪酔い

大量飲酒による嘔吐、頭痛などの不快な症状をいいます。

3 寝つかれないときやイライラするときを酒を飲む。

寝つかれないときやイライラするときを酒を飲む。

資料・地域保健

募 集

親業訓練一般講座受講生

親(人)の話し方ひとつで子どものしぼんでいた心がふくらみ聞き方ひとつでやる気が生れる。

今まで気づかなかったちょっとした心づかいが、子どもをすばらしく変える。そのような家庭や地域の中での人間関係について一緒に学んでみませんか。

- 1 開設期間 64年1月下旬から3月中旬までの毎週1回の計8回連続講座です。
- 2 募集人員 25名
- 3 費用負担 受講料 16,000円
- 4 講師 宮里マチ子先生(他)
- 5 会場 村中央公民館
- 6 申込み先 村教育委員会(社会教育課)
- 7 申し込み締切 64年1月20日

※ 開設時間については受講生が集まって決める。
なお詳細については社会教育課にお問合わせ下さい。 電話 56-2645

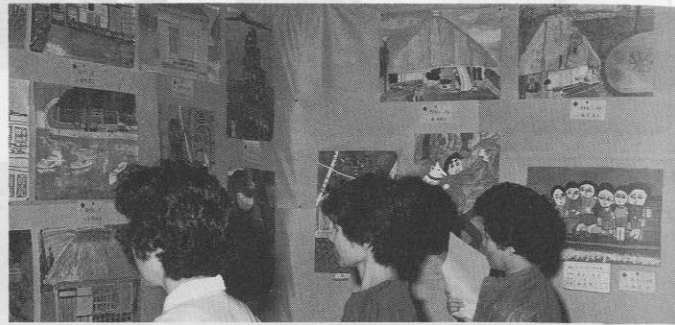
お知らせ

新春ロードレース開催について

村民の健康増進とスポーツ振興を目的に恒例の新春ロードレースが1月2日に開催されます。あなたも爽やか気分です正月路を走ってみませんか。

- 1 期 日 昭和63年1月2日(月)
8:30受付、9:30開会式、10:00スタート
- 2 場 所 村営グラウンド(雨天時変更あり)
- 3 申込み先 村体育協会事務局(仲村あゆみ)
電話 56-2101・56-2102
- 4 申込締切 12月15日(木)午後5時
- 5 出場者はスポーツ災害保険(100円)に加入すること。(体協事務局で手続き)
- 6 種目
(1)小学校の部男女とも1,000M(但し3年生以上)
(2)中学校の部男子 3,000M・女子2,000M
(3)高校の部 男子10,000M 女子2,000M
(4)一般の部 10,000M (5)30代の部5,000M
(6)40代の部 3,000M (7)50代の部2,000M

※コース等詳細については体協にお問合わせ下さい。



▲子どもの作品に見入る母親たち

村民の創作意欲を高めて文化村づくりの一助にしようと村民が日頃取り組んでいる文化活動の成果を一堂に集めて披露する「第六回今帰仁村文化祭」が十一月五日、六日の両日村中央公民館とコミュニティセンターで開催され、延べ一万余人が繰り出し、大きな成果を納めた。

中央公民館には児童生徒の図画、習字、一般の部の絵画、書道、手工芸品、生け花、農産加工品、盆栽などが展示され、参観者は力作を鑑賞したり、試食コーナーで村婦人会員の手づくり料理に舌鼓をうった。

▼オモチャ作りに挑戦する子どもたち



児コーナーでは、アダン葉やスキの穂、空箱を使ったオモチャ作りも行われ、保母や父母の手ほどきを受けながら子どもたちも昔のカジマヤーや草笛などのおもちゃ作りに挑戦していた。

手ほどきを受けながら子どもたちも昔のカジマヤーや草笛などのおもちゃ作りに挑戦していた。

みんがな作品を展示 村民の創作意欲を高める 今帰仁村第六回文化祭



▲輪まわしはお手の物と走り出し孫から盛んな拍手

世代間の交流と健康づくりを目的とする今帰仁村第十四回老人婦人スポーツ大会(宮里政新老人クラブ連合会長・大城義子婦人会長)が十月三十日村営グラウンドで開かれ、お年寄りから子や孫まで多数の村民が参加。絶好のスポーツ日和の下で快い汗を流した。

運動会には村内の各字の老人クラブ、婦人会が選手を送り込み熱戦が展開され、「家族グルミで」「おじいちゃん、おばあちゃん、おかあさん頑張って!」と拍手

若い人が少なくなり、お年寄りが増えた場合年金の支給年齢を七十歳に繰り下げるといふことはありませんか。

国民年金は、国の運営する公的年金制度であり、加入は強制で、保険料を納付する義務があります。昭和六十一年四月から国民年金は大副に改正され、二十歳から五十九歳までの国民全

国民年金

(シリーズ2)

質問と回答

Q & A

(問1)

若い人が少なくなり、お年寄りが増えた場合年金の支給年齢を七十歳に繰り下げるといふことはありませんか。

年金は働けなくなったときに、生活に支障が生じないようにするためにつくられた制度です。支給年齢の六十五歳ということも、いまいったこと等を考えて決められたことです。ですから、世の中が変わり、人の体力も強くなり、会社の定年等も六十五か

ら七十歳へと伸び、六十歳代は働き盛りで収入も充分あり、年金支給が七十歳でも良いという状況にでもなれば別ですが、高齢者が増えたからといって、簡単に支給年齢の繰り下げはありません。そういうことも見透して制度をつくっており、国が責任を持って運営していますから安心なさって下さい。

(問2)

他の若い人が納付しないから、私も納付しないという考えでよいのですか。

年月がたつのは早いものです。若い時から老後のこと、また方が一のことと考えて必ず加入し保険料を納めて下さい。

老人婦人スポーツ大会

融和

健康づくり

心地よい汗流す



▲小学生の対抗で玉入れ

と声援をおくり、煮のあった応援合戦も繰り広げられた。競技は婦人会の百メートル競

争、四百メートルリレーや老人クラブの五百メートルリレー(①タイヤ廻し、②一輪車③輪(リム)廻し、④スパーン競争、⑤五十メートル走の繰返し)など体力に応じて種目も設定された内容。また親、子孫とバトンを引き継ぐ三代リレーも行われ、世代間の交流も行われた。対抗競技などの熱烈プレーのほか、ゆうぎや踊り、後援団体リレーなど趣向を凝らしたプログラムで観衆を沸かせた。

国民年金は、国の運営する公的年金制度であり、加入は強制で、保険料を納付する義務があります。昭和六十一年四月から国民年金は大副に改正され、二十歳から五十九歳までの国民全

12月

● 村民カレンダー 1988年

師走



12/1 木	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00)
2 金	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○歯科検診2歳児 (コミセン13:00~14:00) ○操体法 (コミセン13:00~15:00)
3 土	○健康相談 (保健婦室 9:00~11:00)
4 日	○一人暮らし老人激励会 (コミセン14:00~17:00)
5 月	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00)
6 火	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○手話サークル (コミセン19:30~21:00)
7 水	○心配ごと相談 (コミセン13:00~17:00)
8 木	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○歯科検診2歳児 (コミセン13:00~14:00)
9 金	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○操体法 (コミセン13:00~15:00) ○人権相談 (コミセン10:00~16:00)
10 土	○健康相談 (保健婦室 9:00~11:00)
11 日	
12 月	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00)
13 火	○DT今小6年生 ○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○家庭介護講習会 (コミセン14:00~17:00) ○手話サークル (コミセン19:30~21:00)
14 水	○リハビリ (コミセン13:00~15:00) ○心配ごと相談 (コミセン13:00~17:00)
15 木	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00)
16 金	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○1歳6ヶ月健診 (コミセン13:00~14:00)

17 土	○健康相談 (保健婦室 9:00~11:00)
18 日	
19 月	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○3歳児健診 (コミセン13:00~14:00)
20 火	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○手話サークル (コミセン19:30~21:00)
21 水	○DPT予防接種 (コミセン13:00~14:00) ○心配ごと相談 (コミセン13:00~17:00)
22 木	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00) ○老人大学修了式
23 金	○ことばの教室 (コミセン 9:00~12:00)
24 土	○健康相談 (保健婦室 9:00~11:00)
25 日	
26 月	
27 火	
28 水	○役場御用納め
29 木	
30 金	
31 土	
1 日	

役場の電話番号

議水	道課	4398	総務課	2101
教育	委員	2645	住民課	2102
社協	ミセ	2647	税務課	2105
コ厚	生課	4742	企画課	2255
		4397	建設課	2256
			経済課	
			農業委員	

■斜陽化作物だという人もいるものの、まだまだ沖繩の基幹作物にちがいのないサトウキビの穂が出始めた。ゆるれる穂は、オイデオイデと北風を招いている。それとも、キビ価格の二年連続の値下げに抗議し、イヤイヤと長い首を横に振っている？

■暦の上では立冬も過ぎたといえ暖かい沖繩はまだ秋。秋の夜長といわれるとおり夕暮れはますます早くなり、仕事と日の短かさに追われ、ひと息つく間もなく慌しい師走が目前に迫ってきた。

■この時期、火災の多くなるシーズン。各自の心がけて火災は防げるもの。火の元には十分気をつけ大切な生命、財産を火に持っていけないようにしたい。

編集後記